

パソコン操作ログ管理ソフト

スペクタープロ7+ PLUS

簡易運用マニュアル

トライアルご利用の流れ

- ①インストールする前に
セキュリティソフトを一旦停止させます。
- ②スペクタープロインストール 作業
- ③インストールした後に
セキュリティソフト側で除外設定をします。
- ④別のP Cからログデータを閲覧する方法
- ⑤主な機能一覧
スペクターでどんなことができるか確認頂きます。
- ⑥重要な設定項目
問合せが多い設定項目について、説明しています。



セキュリティソフト（アンチウイルス・スパイウェア対策）を一時的に停止させます。（除外設定後、再起動すれば元に戻ります。）

■ログ管理ソフトは、監視対象端末のログを取るという性質上、セキュリティソフトからスパイウェアと認知される可能性が高く、一時停止せずインストールしてしまうと、検知され、削除されてしまいます。

■セキュリティソフトを終了させる方法

ここでは、代表的なセキュリティソフト「ウイルスバスター2011/2012」と「Norton InternetSecurity 2011」を例に説明します。

◆「ウイルスバスター2011/2012」の場合

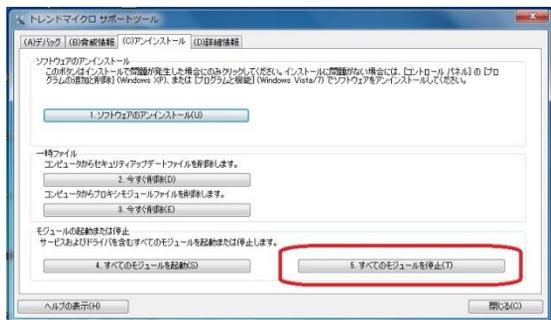
<操作手順>

①コンピュータ上で起動しているすべてのアプリケーションを終了します。
ウイルスバスターのメイン画面を起動中の場合は、メイン画面を閉じます。

②[スタート]→[すべてのプログラム]→[ウイルスバスター2011/2012 クラウド]→[トレンドマイクロ サポートツール]を順にクリックします。



③「トレンドマイクロサポートツール」画面より、[(C)アンインストール]タブ→[5. すべてのモジュールを停止]をクリックします



④[5. すべてのモジュールを停止]のボタンがグレーアウトされますので、数分待ちます。再度、[5. すべてのモジュールを停止]のグレーアウトが解除されると、一時停止の操作は完了です。

◆「Norton InternetSecurity 2011/2012」の場合

<操作手順>

①「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton Internet Security」→「Norton Internet Security」の順にクリックします。

Norton Internet Security」が表示されます。「拡張表示」をクリックします。



②次の項目から、停止する項目の右側にある黄色いボタンをクリックします。
コンピュータ保護の項目を反転させます。



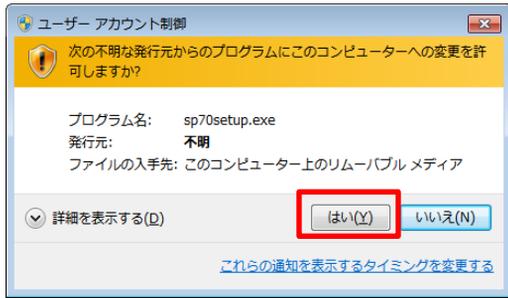
「セキュリティ要求」と表示された場合は「期間を選択してください。」の、「▼」ボタンをクリックし、表示される一覧から、停止する期間を「システム再起動まで」を選び、「OK」ボタンをクリックします。

※パソコンを再起動すると、一時停止は解除されますが、その前に除外設定（5ページ）を行って頂きます。再起動後は通常通りセキュリティが機能します。

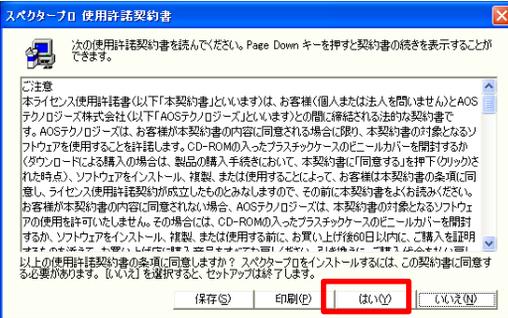
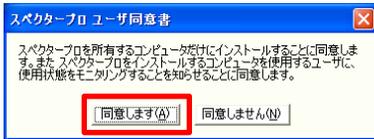


以下の手順に従ってスペクタープロをインストールします。

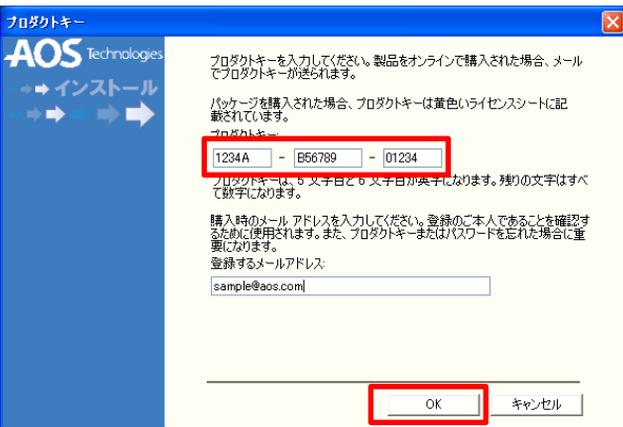
- ①管理者 (Administrator) 権限のあるユーザでログオンし、インストール用のファイルを実行すると、Windowsインストーラの画面が起動します。Vista、7の場合は確認画面が表示されますので〔はい〕をクリックしてください。



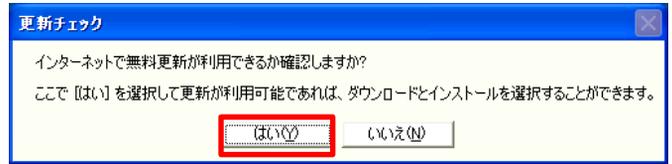
- ②スペクタープロのユーザ同意書を確認し、〔同意します〕をクリックします。次に使用許諾契約書を確認し、〔はい〕をクリックします。



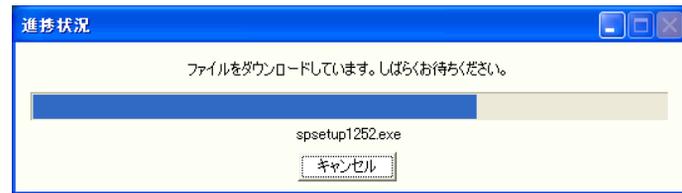
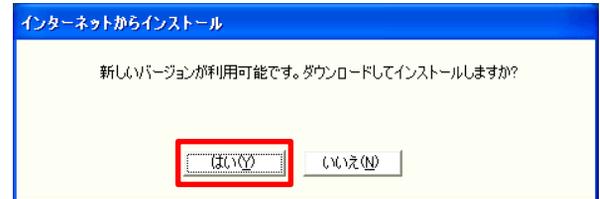
- ③シリアルキー、メールアドレスを入力し、〔OK〕をクリックします。



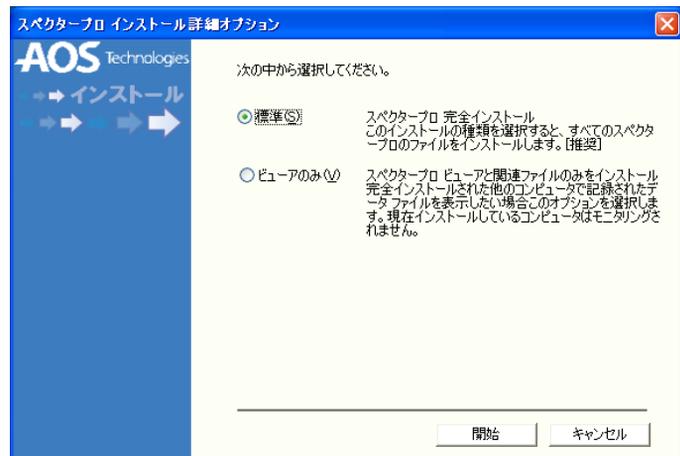
- ④「更新チェック」ウィンドウが開きます。〔はい〕をクリックすると、更新版があるか確認します。



- ⑤最新バージョンがある場合、最新バージョンをダウンロードすることができます。



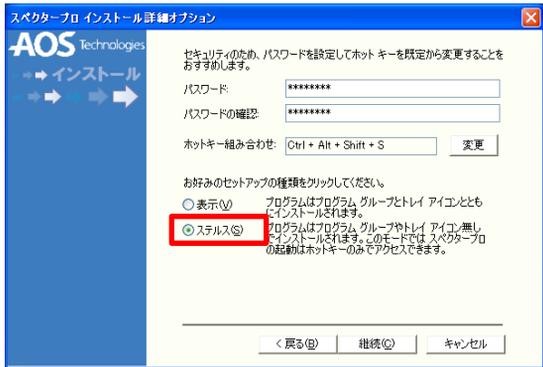
- ⑥インストール詳細オプションでは〔標準〕を選択した状態で〔開始〕をクリックします。監視対象端末には〔標準〕で、監視側には、〔ビューアのみ〕をインストールします。



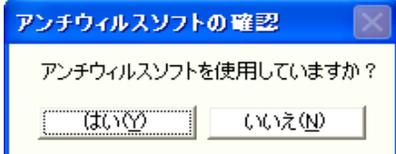
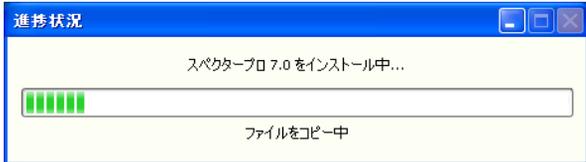


以下の手順に従ってスペクタープロをインストールします。

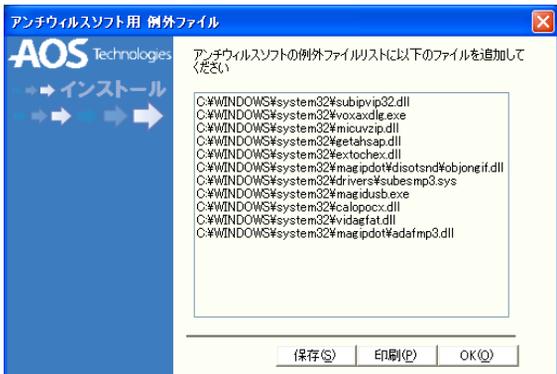
- ⑦ 必要に応じ、パスワード、ホットキーを入力し、セットアップの種類を選択します。ホットキーはビューアを起動する際に必要になります。
注意：ステルスモードでインストールした場合、ホットキーでのアクセス可能ですので忘れないようにしてください。



- ⑧ 前画面で、〔継続〕をクリックするとインストールを開始します。その後、アンチウイルスソフトを利用しているかどうかの確認画面が出ます。
※スパイウェア対策ソフトも対象です。

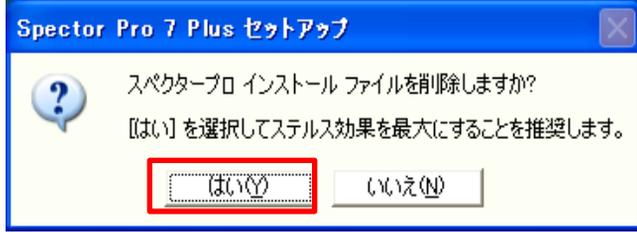


- ⑨ アンチウイルスソフトに例外処理させるファイルのリストが表示されます。必ず、保存もしくは印刷してください。



**※例外ファイル名は、インストールするごとに
変更しますので、都度保存・印刷して下さい。**

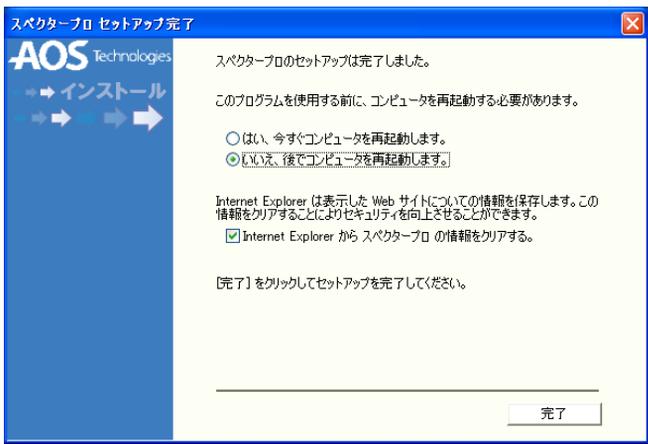
- ⑩ インストールが完了すると、インストールファイルを削除するかどうかの確認を求められます。〔はい〕を選択するとハードディスクに保存されたインストーラが削除されます。



- ⑪ Readmeファイルが開きます。スペクタープロを使用する上での注意事項が記載されています。ご確認後、右上の〔x〕ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。



- ⑫ 「Internet Explorerからスペクタープロの情報をクリア」を選択すると、完了時にスペクタープロのWebサイトの閲覧履歴を削除することができます。この後、セキュリティソフトで除外設定をしますので、〔いいえ、後でコンピュータを再起動します。〕にチェックし、〔完了〕をクリックします。

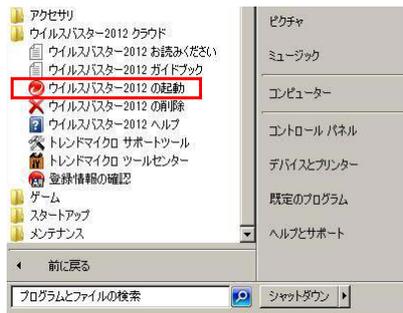




セキュリティソフトの除外設定をします。

※セキュリティソフトのメニューを起動し、スペクタープロをチェック対象からはずす設定をします。
(ここからは、ウイルスバスター2012を例にとって、説明します。セキュリティソフトによって除外設定方法が異なりますので、各商品のマニュアル等を参考に設定を行ってください。)

- ① [スタート]→[すべてのプログラム]→[ウイルスバスター2012] → [ウイルスバスター2012の起動] を選択します。



- ② メイン画面下の[設定]をクリックします。
※ 歯車のマークのアイコンです。



- ③ [設定]画面左側の[例外設定]→[ファイル/フォルダ]をクリックします。



- ④ [+追加]ボタンをクリックし、「項目の追加」画面を表示させます。



- ⑤ [参照]ボタンをクリックし、除外したいファイルもしくはフォルダを選択し、[開く]をクリックします。
ここで、前頁④で保存・印刷したリストに該当するファイルを探します。



- ⑥ 選択が完了したら[OK]ボタンをクリックします。
※一覧に、追加したファイルもしくはフォルダのパスが表示されます。



- ⑦ 項目③の画面に戻りますので、 [+追加]を選択し、前項⑤の該当ファイル数分、この処理を繰り返します。
すべて追加し終わったら、最後に [設定]画面右下の[OK]ボタンをクリックすることで、設定が保存されます。このあと、パソコンを再起動すれば、ログを記録し始めます。



セキュリティソフトの除外設定をします。

※ウイルスバスター以外の主要セキュリティソフトの除外設定方法参照先

■ Norton InternetSecurity 2011

ノートンインターネットセキュリティでは、除外設定を2か所で行う必要があります。

①「スキャンから除外する項目」

②「Auto-Protect とSONAR 検出から除外する項目」

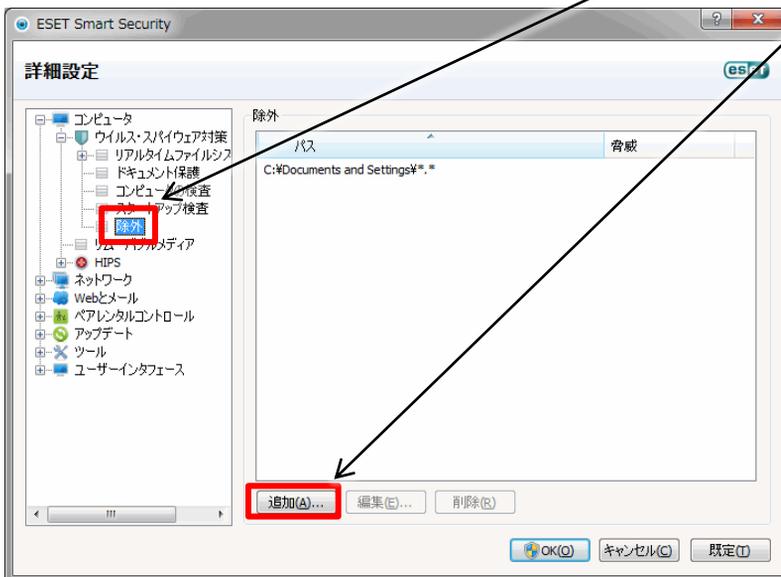
参考URL : <http://www.support.toray-acis.jp/NAV2011.pdf>



■ ESET Smart Security ・ NOD32アンチウイルス

参考URL : <http://canon-its.jp/supp/eset/etpc40007.html>

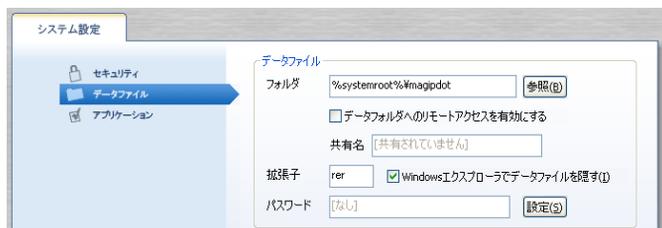
[コンピュータ]→[ウイルス・スパイウェア対策]→[除外]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。



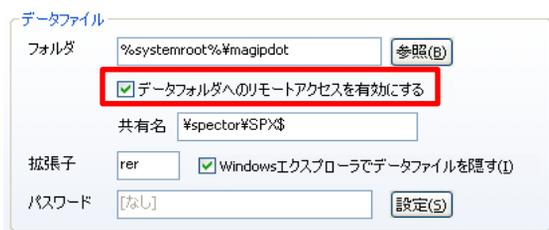


別のPCにビューアをインストールし、ビューアで監視対象PCのログを見に行く方法です。監視対象PCで直接確認する場合は、この作業は必要ありません。

- ①監視対象PCにインストールされている **スペクタープロ** をホットキーで起動させます。メニュー画面右上の「設定」>「データファイル」を開きます。



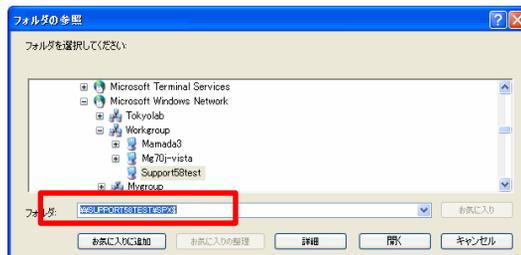
- ②データファイルの設定画面の「**データフォルダへのリモートアクセスを有効にする**」にチェックを入れて〔OK〕をクリックします。



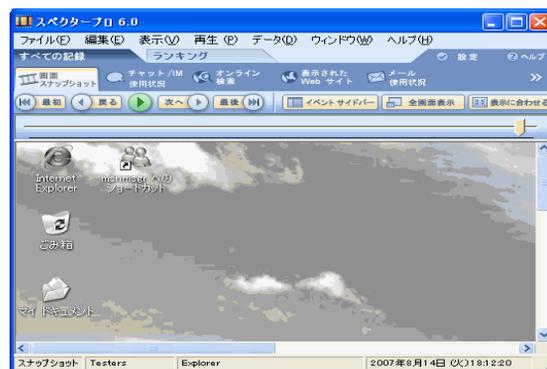
- ③別のPCに**ビューア**をインストールします。基本的には3~4ページのインストール方法と同じですので、違う点を説明します。

セキュリティソフトを一時的に停止させる必要はありません。
 項目①~⑤は変更ありません。
 項目⑥で〔ビューアのみ〕を選択します。
 項目⑦で〔表示〕を選択します。
 項目⑧で「アンチウイルスソフトを使用していますか？」で「いいえ」を選択します。
 項目⑩で「いいえ」を選択します。
 項目⑫で「はい、すぐにコンピュータを再起動します。」を選択します。
 セキュリティソフトの除外設定をする必要はありません。

- ④再起動後、ビューアを立ち上げ、「ファイル」>「データファイルを開く」を選択し、②で設定したPCのデータフォルダを指定します。
 例：¥¥<モニタリングするコンピュータ名> ¥SPX\$



- ⑤〔開く〕をクリックすると、モニタリングするPCから記録データが読み込まれ、各種データを閲覧できるようになります。



※ビューアで閲覧した場合、画面推移に多少時間がかかります。スムーズな閲覧をしたいという場合は、データを管理者PC側にコピーした上で閲覧する方法があります。
 →ネットワーク¥¥対象のコンピュータ名¥SPX\$のデータを管理者PCにコピーし閲覧します。



①画面スナップショット

Webサイトのロード、ページのスクロール、プログラムの起動、ウィンドウタイトルの変更、マウスクリック、Enterキーの使用などで、スナップショットを撮ることができます。再生機能を使用すると、撮ったスナップショットを、スライドショーで確認することができます。

②チャット/IM使用状況

Windows Live メッセンジャー、Yahoo! メッセンジャー、Google トーク、Skype、IRCなどのアプリケーションからチャットやインスタントメッセージ (IM) での会話の記録を閲覧できます。

③オンライン検索

Google、Yahoo!、MSN (Bing) などの検索エンジンを使用した検索をすべて記録します。使用した検索エンジン、検索語や回数の記録を閲覧することができます。
※ブラウザの検索窓からの検索は記録されることがあります。

④表示されたWebサイト

アクセスしたWebサイトを記録することができます。Webサイトの表示回数、アクセスの総時間を閲覧することができます。また、ドメインやサブドメインなどからアクセスをブロックすることも可能です。

⑤メール使用状況

メールおよびWebメールサービスで送受信されたメールを記録します。メールの宛先、件名、本文、さらに添付ファイルを含むメールの送受信の記録を閲覧することができます。

⑥転送されたファイル

WebサイトやFTPサーバへのアップロード、ダウンロードを記録します。転送先または転送元のドメイン名とIPアドレス、ファイル名、アップロードかダウンロードかなどの記録を閲覧することができます。

⑦タイプされたキーストローク

キーボードでタイプされたすべての入力を記録します。文字キーだけではなく、ShiftやCtrlなどのキーやパスワードなどの文字としては表示されないキー入力も閲覧することができます。
また、画面スナップショット機能と合わせることで、入力内容を完全に記録することができます。

⑧プログラム使用状況

ユーザが実行、操作したプログラム情報を記録します。プログラムウィンドウのタイトル、使用回数、時間など実行されたプログラムの記録を閲覧できます。

⑨ユーザ使用状況

ユーザが使用していた時間や使用していない時間などを記録します。

⑩ドキュメントの追跡

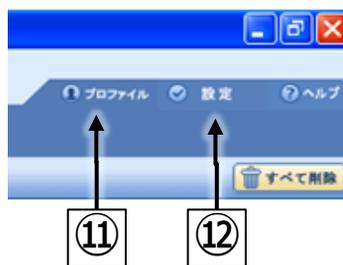
ファイルの作成、上書き保存、名前の変更、印刷、削除などドキュメントに関する操作を記録します。時刻やファイル名、操作内容の記録を閲覧することができます。

⑪プロフィール

記録する項目やトリガーを設定します。PC全体に適用する設定およびログオンするユーザ毎に設定できます。

⑫設定

スペクタープロの画面を呼び出すためのホットキーや記録済みデータの共有設定を行います。



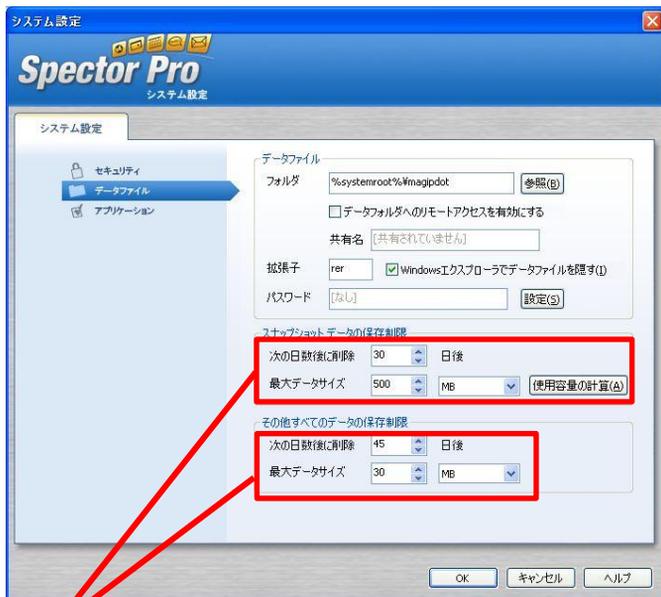
・スナップショットにジャンプ / キーストロークにジャンプ

上記で紹介したほとんどの機能で閲覧中の記録データからデータが記録された時のスナップショットやキーストロークにジャンプすることができます。この機能を活用することで、どのような操作が行われていたのかを具体的に知ることができます。



1. 保存するデータ容量の設定方法

■監視対象PCにインストールされているスペクタープロをホットキーで起動させます。メニュー画面右上の「設定」>「データファイル」を開きます。



スナップショットとそれ以外の全データの保存制限を日数と容量で設定します。

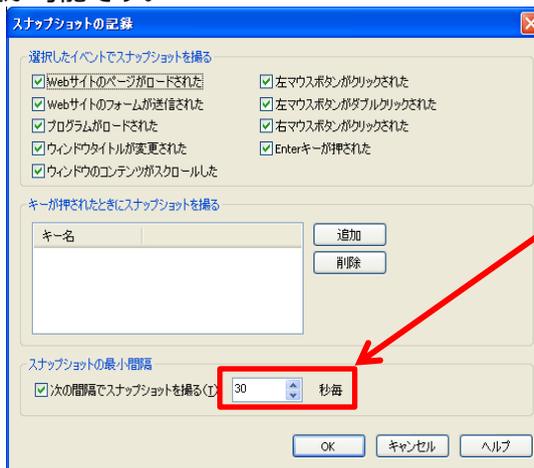
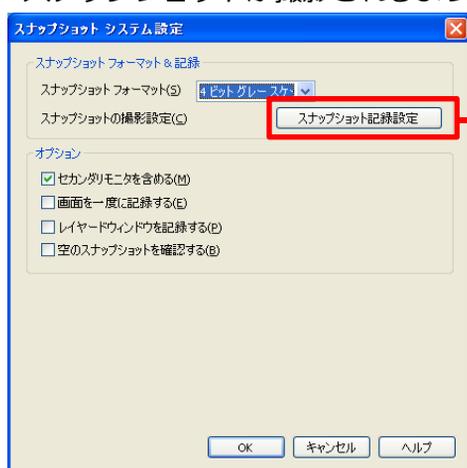
2. メール取得設定

■メニュー画面の「プロファイル」>「メール使用状況」のオプション設定で、添付ファイルを取得するかどうかを選べます。



3. 「画面スナップショット」の設定方法

■メニュー画面の「プロファイル」>「画面スナップショット」>「システム設定」では、規定値で4ビットグレースケールで30秒毎に画面スナップショットが撮影されるよう設定されていますが、☑方式で「Webページの表示完了」や「マウスのクリック」などの動作をした時にスナップショットが撮影されるよう設定が可能です。



撮影間隔も調整できます。



4. 「ドキュメントの追跡」の設定方法

初期設定では、追跡オプション設定が「追跡しない」に設定されているため、「ファイル名を変更」、「USBでデータを保存等」等の行為を追跡するには設定が必要です。

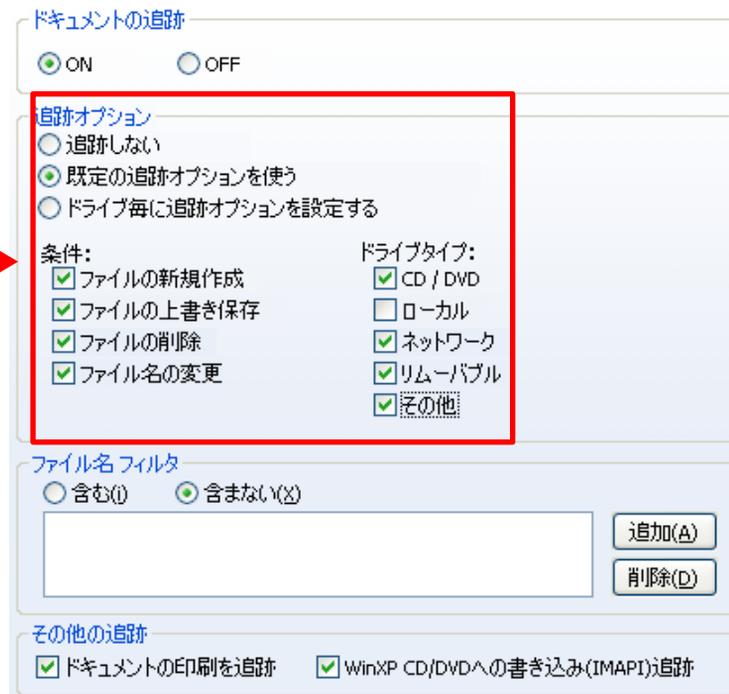
■ 設定方法

TOPメニュー画面で「プロファイル」を選択。⇒「ドキュメントの追跡」をクリック。

「追加オプション」項目で、ドライブ毎にどのようなドキュメントの操作（ファイルの作成、上書き保存、削除、ファイル名変更）を記録するか設定します。

「ファイル名フィルター」では、フィルタを定義することにより、特定の拡張子（*.doc、*.xlsなど）を持つドキュメントのみ記録する（または記録しない）ように設定できます。

例：すべてのWordドキュメント → *¥*.doc



5. 「ログデータ」のバックアップ方法

初期設定では、監視対象PC自体にログデータを保存します。そのままにしておくと、設定以上のログは古い順に消えていきます。既存データファイルを消さないため、バックアップを取っておく必要があります。

<バックアップ方法>

1. ビューアのどこからでも、メニューバーから **データ > バックアップ** を選択すると、**フォルダの参照**ウィンドウが開きます。
2. データファイルを復元したい場所を指定します。そして、**新しいフォルダの作成**をクリック。新規フォルダが現れます。
3. 任意の名前を入力することで、モニター対象ユーザを明らかにしません。
4. OKをクリックします。フォルダの参照ウィンドウが閉じます。プログレスバーは、データファイルがコピーされた事を通知し、バックアップが完了した事をあなたに通知するメッセージを表示します。
5. 完了したら OKをクリックしウィンドウを閉じます。